
復讐～君が死んだから～

四燠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

復讐～君が死んだから～

【Nコード】

N1769Q

【作者名】

四燠

【あらすじ】

君が死んだ。なら俺は……

* 残酷描写みたいになつてないかもしません。

(前書き)

最初は『復讐』を中心。

最後には恋糸っぽく。

君を殺した。
あいつを殺す。

どんな手段を持つても、必ず殺してやる。

4月

君が死んだ。

被害者として、君は殺された。
理由なんて知らない。
どうだつてい。

君が死んだんだから。

俺は君を殺したヤツを知っている。
実際に田の前で殺されたのだから。

——君が

俺はだれにも言わない。

俺が殺してやるから。
絶対に。

地獄のそこまで落としてやる。

最大の苦痛と苦しみを『見てやる。』
だから誰にも言わない。

今俺が負っている怪我は一つ。

両腕の骨の紛失。

今や全く動かない。

気にしなければ初めから無い氣もある。

俺が今いる場所はベットの上ではない。
ヤツのすぐ近くだ。

病院で動くなといわれていたが、無視した。
きっと痛いんだろう。

でも、そんなの知らない。

君はもつとつらい思いをしたはずだから。
こんな痛みどうたつてことはない。
それだけで動ける。

両腕はぶら下と、垂れ下がった状態でいたからきっと変わって見え
たんだろう。
すぐに気付いたよつだ。

「外に来い」

そう応えておいた。

數十分ぐらじしてヤツが来た。

笑つてやがる。

何がそんなに楽しんだ。

——ぶつ殺してやる。

数分後、俺は地面で救急車の音を聞いた。

今回受けた怪我は、

——片足の損失。

そのままだ。

聞いた話によると、かなりぎりぎりだったそうだ。
片足が丸々無くなっていたらしい。
もぎ取られたのだ。

今度は警察どもが俺のいる病室に来ようとした。

それは、担当の先生が何とかいつ引き返してもらつたそうだ。
今回のことがあつたから「また行くのではないか」と思われたそうだ。

余計な迷惑だ。貴様らが何をしようと俺は行くの。

それから3日後30分だけ先生たちで会議があるそつだ。

その間に俺は外に行つた。

どうやってだと?

簡単。単純明快。

昨夜付けてもらひた偽足を使うのを。
本当は動いぢやいけないんだけど行く。ビリもでも。

——ぶつ殺してやる

6月

今回は一ヶ月ほど完全に動けなかつた。
動きたくても動けないのだ。

あれからあの後ヤツに出会い、ぼくはこれまで終わつた。
どうやらするのをヤツは知りたかったそうで少しスキができた。

俺は足も使えず腕も使えない。

そんな状態でやつた行動は、「かみ殺す」。それだけだ。

多少の怪我は負わせたが、まだヤツは生きている。

今俺は動くことどころか食べることすらできない。

でも、俺は今ヤツの前にいる。
立っている。

“どうやつてここまで来たかなんて知らない。

ただ俺はヤツが俺が寝ている間に来て「手紙」をおいていったということしか知らない。

その手紙には、「寧に」「自分のいる場所」が描かれていた。

そこが自分にとって「墓所」になることも知らずに。

—— 数分後

俺は地面に横たわっていた。

どうやらヤツは俺を殺すようだ。

目の前にある拳銃を見れば分かる。

笑ってたがる。

—— ぶつ殺してやる。

—— ブラックアウト

「……は？」

「真っ暗だ。何も見えない。

「おや？ 小さな光か。

「妖精といつヤツか。俺に何のよつだ。

「なに？ 願いを言つてみるだと？」

「簡単だ。ヤツを殺す。それだけだ。

「叶えてやる。ただおまえのもの「すべて」をもらひ。

「過去も未来も、すべてだ。

「…………いいだろう。すべてをくれてやる。

「……」
「そういえば妖精というヤツはたしか、「名前も知れずに独り死んで
いつて誰にも覚えられない」そんな小さな子供がなるつて聞いたこ
とがあるな。つまり天使と悪魔と死に神のどれかになるつて、そん
なことを聞いたつけな。何にせよ今はどうでもいい話だ。

「―― そうか、田を閉じる。ゆつくつと。

―― ……（なぜ、そんな悲しそうな顔をするんだ。）

―― もや？――こつは『アイシ』か『死んでるか。

―― デフヤラ俺の存在』こと逆ぐるやつだな。

―― やよなじか。過去も未来も。

―― おや？小さな光だ。なつかしい感じがする。

―― バカじゃんか

―― なんだ、――こつはこきなりけなしやがつた。

―― ああ、思へ出した。君は……

―― 誰だっけ？ 知っていた気がする。

―― なんだ？ なぜ俺は泣いているんだ？

―― わからない。

—— やるなさい。

—— ……思ひ出した。お前か。

—— ああ、なら聞いておかないとな。

—— 君のことが世界で一番――

—— なんだっけ?

—— 俺は誰だ?

—— 一様いつてねいわ。

—— 言わなきやいけない気がする

—— キラが好きですか』

——『やるなさい』

— まだ、俺は

——— ゴールデンタイム

(後書き)

この主人公は最後に何を伝えたかったのかな?

『過去と未来』

それは、

今までの記憶と、これから記憶のこと。
これを失うつてことは、『自分』をなくす。
つまり、
『もともといなかつた人』となること。を表したつもりです。

この主人公は『過去も未来もないから、当然記憶はなくなる。』と
いうことを知つてやつた行動です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1769q/>

復讐～君が死んだから～

2011年1月18日20時42分発行